

基本マスター

BASIC

英文法

大森善郎
Yoshiro Omori

語研

【……基本マスター……】

BASIC **英文法**

大森善郎

語研

●●● はじめに ●●●

私は日本語で育ち、日本語で考えて生きてきました。そんな私が英語を身につけるには「日本語と英語を比べて」考える方法しかありませんでした。ネイティブに囲まれて育ったならば「英語を英語として」身につけることができたでしょう。しかし残念ながらABCも中学生になって初めて覚えた平凡な日本人の私なのです。

Hello! How are you? あいさつを交わすのは英会話学校でうまくなるでしょう。しかしそこから先の「中身のある会話」になると…文法知識が必要です。そうでなければ相手の言うことが理解できませんし、自分の意思も表現できません。

How are you? = 「こんにちは」と暗記したのでは「お母さんは元気ですか」が表現できません。How are you? = 「あなたはごきげんいかがですか」と文法的に理解して初めて応用の表現ができるようになります。

この本は日本人による・日本人のための・日本語から発想した解説書です。ポイントを各章でわかりやすくまとめ、図やイラストを使ってイメージを頭に描きやすくしました。むずかしい文法もできるだけわかりやすく説明しました。

いくら文法を頭で理解しても英語は「使えてなんぼ」のものです。そのために練習問題を用意しました。解説もしっかりつけましたので、クイズのように楽しみながら解いてください。

あなたが英語を好きになり、映画や歌を楽しみ、留学や駐在の夢に向かって走りだす。本書がそんなきっかけになれば、これほどうれしいことはありません。

大森善郎

目次

はじめに	3
本書の使い方	7
Chapter 1 英語について知ろう	Unit 1 英語と日本語の違い 10 Unit 2 主語とは 11 Unit 3 英語は説明が後ろからついてくる 13
Chapter 2 代名詞	Unit 1 代名詞とは 16 Unit 2 代名詞に置きかえるときの注意点 19 練習問題 22
Chapter 3 動詞と文の作り方	Unit 1 動詞とは 28 Unit 2 be 動詞と一般動詞 29 Unit 3 主語と動詞の一致 30 Unit 4 一般動詞：自動詞と他動詞 33 Unit 5 疑問文の作り方 36 Unit 6 Wh・How の疑問文 38 Unit 7 疑問文への答え方 40 Unit 8 否定文の作り方 43 Unit 9 否定疑問文 46 Unit 10 付加疑問文 48 練習問題 53
Chapter 4 動詞の時制	Unit 1 現在形 62 Unit 2 過去形 64 Unit 3 動詞の過去形 66 Unit 4 現在進行形 70 Unit 5 進行形にできない動詞 72 Unit 6 未来形 75 Unit 7 完了形 77 練習問題 81

Chapter 5 助動詞	Unit 1	助動詞とは	86
	Unit 2	助動詞の意味	87
	Unit 3	助動詞を使った文の作り方	90
	Unit 4	助動詞の過去形	93
	Unit 5	助動詞を使った文の答え方	95
		練習問題	98
Chapter 6 名詞・冠詞	Unit 1	名詞とは	104
	Unit 2	数えられない名詞	105
	Unit 3	冠詞とは	109
	Unit 4	冠詞の使い方	110
		練習問題	113
Chapter 7 形容詞	Unit 1	形容詞とは	118
	Unit 2	形容詞の使い方	119
	Unit 3	いろいろな形容詞	122
	Unit 4	形容詞の比較	125
		練習問題	129
Chapter 8 副詞	Unit 1	副詞の働き	134
	Unit 2	いろいろな副詞	137
	Unit 3	副詞の比較	140
		練習問題	142
	Chapter 9 前置詞	Unit 1	前置詞とは
Unit 2		場所や方向を表す前置詞	150
Unit 3		時間や期間を表す前置詞	154
Unit 4		前置詞のいろいろな働き	157
		練習問題	160

Chapter 10

接続詞

Unit 1	接続詞とは	166
Unit 2	接続詞の働きと種類	167
Unit 3	つなぎ方	170
Unit 4	条件・時を表す副詞	173
Unit 5	前置詞と接続詞の違い	176
	練習問題	178

Chapter 11

いろいろな文の形

Unit 1	受動態	184
Unit 2	5つの基本文型	186
Unit 3	分詞	189
Unit 4	感嘆文	191
	練習問題	194

Chapter 12

動名詞・不定詞

Unit 1	動名詞・不定詞のちがい	198
Unit 2	どっち？ 動名詞・不定詞	200
Unit 3	不定詞の形容詞的用法	203
Unit 4	不定詞の副詞的用法	205
	練習問題	208

Chapter 13

関係代名詞

Unit 1	関係代名詞とは	214
Unit 2	関係代名詞の基礎知識	215
Unit 3	主格の関係代名詞	217
Unit 4	目的格の関係代名詞	219
Unit 5	所有格の関係代名詞	221
	練習問題	223

装丁デザイン 神田昇和
本文イラスト 高橋かおり

本書の使い方

本書は全13章で構成されています。本書で学習するにあたり、英文法の予備知識は必要ありません。まったく知識のない方、あるいはすっかり忘れてしまった方が理解しやすいように英文法を一から解説しています。

英文法の根幹となる知識と理解を各章で重ねていきますので、Chapter 1からの学習をおすすめします。しかし、ある程度わかる項目があるという方は、自信のない項目から始め、知識のある項目についてはその後で復習もかねて目を通す、という方法でもかまいません。

本書には「まとめ」のページを各章に用意してあります。学んだ項目を確認してから練習問題に取り組むことをおすすめします。

まとめ

- 代名詞は名詞の代わり
- 2回目に出てきた名詞は代名詞に変える
- I-my-me-mineとセットで覚える
- 「私」と「あなた」以外は3人称
- 複数の人を代名詞にするときは「私」が1番、「あなた」が2番！

Chapter 2 代名詞 練習問題

次の文の下線を代名詞に置きかえましょう。

1. John and Ken are Mike's friends. (ジョンとケンはいマイクの実友です)
2. Judy and I are sisters. (ジュディと私は姉妹です)
3. You and Ken are kind. (あなたとケンは親切です)
4. My father is a doctor. (私の父は医師です)
5. My hometown is famous for its temples. (私の故郷は寺で有名です)

次の文の()内を適切な形にしましょう。

6. That is (you) car. (これはあなたの車です)
7. This is (I) dictionary. (これは私の辞書です)
8. (She) mother is a teacher. (彼女の母さんは教師です)
9. This is (we) dog. (これは私たちの犬です)
10. (It) name is Hachiko. (その名前はハチ公です)

次の文の()内から適切な語を選びましょう。

11. That is not Kathy's bag. It's (my, her, mine).
(それはキャシーのバッグではありません。それは私のものです)
12. Is this your ticket? —No. It's (you, yours, him).
(これはあなたのチケットですか。いいえ、それはあなたのものです)
13. That CD is hers. This one is (me, your, his).
(そのCDは彼女のです。これが私のものです)

Chapter 1 に入る前に

詳しくは該当する Chapter で解説していますが、英文法には品詞がつきものです。Chapter 1 に入る前の下準備として品詞の種類を見ておきましょう。

動詞	文の結論で、状態、動作や感情を表す言葉 例：歩く (walk) 勉強する (study)
主語	結論の行為を行う人やモノ
名詞	人やモノ 例：friend (友だち) train (電車) cell phone (携帯電話)
代名詞	名詞の代わりに使う言葉 例：彼 (he) それ (it) あなた (you)
形容詞	人やモノの様子を説明 例：速い (fast) ゆっくりな (slow)
副詞	動詞、形容詞、副詞、文全体 (名詞以外) を説明 例：速く (fast) ゆっくりと (slowly)
前置詞	場所や時間を表す 例：東京で (in Tokyo) 月曜日に (on Monday)
接続詞	単語や文をつなぐ 例：そして (and) しかし (but)

Chapter 1

英語について知ろう

英語圏と日本語圏の文化にさまざまな違いがあるように、日本語と英語の文法にも基本的な発想の違いがあります。

英語を読んだり話したりするためには、まずその基本的な違いをつかむことが大いに役立ちます。

Unit 1 英語と日本語の違い

Unit 2 主語とは

Unit 3 英語は説明が後ろからついてくる

日本語は文の終わりに結論

日本語は文の終わりに結論があります。英語を学んで理解するには、まず日本語のこの特徴をしっかりとつかんでおくことが大切です。具体的に次の3つの文を比べてみましょう。文の終わりが「する・した・しない」という違いで結論が異なります。

結論

私は 車を 運転します。

私は 車を 運転しました。

私は 車を 運転しません。

英語は文の始まりに結論

英語は結論が先です。さきほどの例文を英語にしてみましょう。

私は 車を 運転します。 I drive a car.
 ① ② ③ ① ③ ②

私は 車を 運転しました。 I drove a car.

私は 車を 運転しません。 I don't drive a car.

drive (運転する)・drove (運転した)・don't drive (運転しない) という結論が先頭にきています。私たちは日本語を使って暮らしていますので、話の最初は聞き逃しても終わりの結論をしっかり聞く習慣が身についています。しかし英語では最初に結論がありますから、英語では話の始まりをしっかりと聞くことを強く意識するようにしましょう。

主語は結論の行為を行う人やモノ

日本語ではよく主語を省略するのでピンとこないかもしれませんが、**主語とは結論の行為を行う人やモノ**です。たいてい文の「～は」の部分にあたります。英語でも日本語でも言語は「主語+結論」つまり「～は どうした」で成り立っています。一番大切なのは結論、その次が主語です。次の文の主語を考えてみましょう。

- (1) 疲れています。
- (2) 車を運転しますか。

「～は」という言葉がないのでわかりにくいですが、前後の文脈によって「私は、あなたは、彼、彼女は」などが考えられますね。日本語では隠れた意味上の主語を使うことがよくあり、主語を省略したほうが滑らかになることがよくあります。

英語には必ず主語が必要

英語では必ず主語を入れるというルールがあります。

主語	結論
I	am tired.
私は	疲れています

主語	結論
Do	you drive a car?
あなたは	車を運転しますか

Iやyouを省略すると文として成り立ちません。日本語のくせで、主語を省略したくなりますが、英語にするときは主語を明確にする作業を大切にしましょう。

人ではなくても主語になる

英語では人物以外の主語（無生物主語と呼びます）をよく使います。

主語	結論	
The store	is open	from 9 to 6.
その店は	開いています	9時から6時まで
(その店は9時から6時まで開いています)		

This picture	reminds	me of my school days.
(この写真は私に学生時代を思い出させます)		
↓		
(この写真を見ると私の学生時代を思い出します)		

これらの文はそれぞれ「彼らは～を開けます」「私は～を思い出します」という文にしてもよいのですが、こういう無生物主語を使うことで表現の幅が広がります。

英語は大切なことを先に述べる

英語は大切なことを先に述べ、説明は後ろからついてきます。逆に日本語は最初に長い説明があってから大切なことが続くので、発想の転換が必要です。例えば「ケンは何日電車で英語を勉強します」という文を考えてみましょう。

ケンは 英語を勉強する 電車で 毎日

Ken studies English in a train + everyday.

この例からわかるように、英語では場所（電車で）と時（毎日）の説明は後ろに置きます。

場所

Ken runs the fastest **in his school.**

(ケンは学校で一番足が速いです)

時

There was an earthquake **last night.**

(昨夜、地震がありました)

これらの例文を英語にするとき、私たちはつい日本語の語順にしたいくなります。しかし場所や時は補足説明なので後ろに置くと覚えておきましょう。

まとめ

- 英語は文の前半に結論
- 主語は結論にあたる行為を行う人やモノ
- 英語には必ず主語が必要
- 英語は大切なことを先に，説明は後ろで

Chapter 2

代名詞

英語は「代名詞を多用する」のが
日本語との大きな違いのひとつです。

「だれが」ということを意識しなければ
話しの流れやストーリーがつかめなくなります。

英語はどのように代名詞を使い、
変化させるのか、その基本ルールを身につけて
代名詞を正しく使えるようになりましょう。

Unit 1 代名詞とは

Unit 2 代名詞に置きかえるときの注意点

Unit 1 代名詞とは

名詞の代わりに使う

代名詞は名詞（人やモノ）の代わりに使われる言葉です。特に疑問文には必ず代名詞で答えることが英語の特徴です。例文を見てみましょう。

Will **Judy** come to the party? （ジューディはパーティに来ますか）

—Yes, **she** will (come to the party). （はい、彼女は来ます）

「彼女」というと他人行儀な感じがしますが、それは日本語であまり代名詞を使わないからです。例えば「愛ちゃんは来るかな?」「うん、(愛ちゃんは) きっと来るよ」が自然な会話であり「彼女は」とは言いませんね。しかし英語で答えるときには必ず代名詞に置きかえるのがルールと考えましょう。

それは主語が人でなくモノの場合も同じです。英語では二回目に出てきた人やモノは常に代名詞に変えます。従っていつも代名詞が何を指しているかを考える癖をつけましょう。

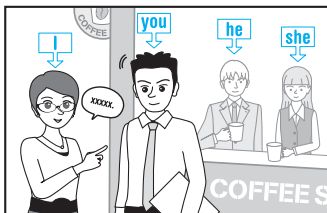
John took a picture. **He** showed **it** to Meg.

(ジョンは**写真**を撮りました。ジョンは**その写真**をメグに見せました)

これを「彼は、それを～」と訳するのは間違いではありませんが、わかりにくいですね。**代名詞は具体的な名前で訳す**習慣にすると、長文を読むときに混乱しなくなるのでおすすめです。

私とあなた以外は 3 人称

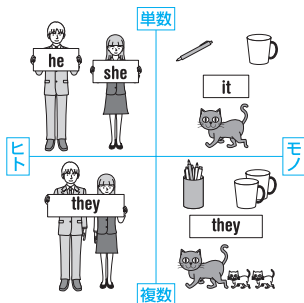
1 人称・2 人称・3 人称の関係を図でイメージしましょう。基本的な構成は「話し手の私 (1 人称) と聞き手のあなた (2 人称)」が手前にあり、その壁の向こうのモノや人物は 3 人称になるという図式です。会話は話し手 (私 = I または私たち = we) と聞き手 (あなたまたはあなた方 = you) で成り立っています。それ以外はすべて第三者 = 3 人称になります。



3 人称は人とモノ

3 人称は「モノ」と「人」に分けて考えることができます。モノの場合、それが一つであれば it (それ) と呼び、二つ以上のモノは they (それら) と呼びます。my cup (私のコップ) も your cup (あなたのコップ) も代名詞では it です。

そしてモノではない人物 (私もあなたも含まない) は 3 人称です。男性が一人なら he (彼), 女性が一人なら she (彼女), 二人以上ならば性別は関係なく they (彼ら) です。つまりモノでも人でも複数ならば 3 人称は共通して they と覚えると楽です。



変化形をセットで覚える

代名詞の変化は I (私は) — my (私の) — me (私を／私に) — mine (私のもの) — myself (私自身) のようにセットで覚えましょう。

		～は (主格)	～の (所有格)	～を／～に (目的格)	～のもの (所有代名詞)	～自身
1 人称	私	I	my	me	mine	myself
	私たち	we	our	us	ours	ourselves
2 人称	あなた (たち)	you	your	you	yours	yourself
3 人称	彼	he	his	him	his	himself
	彼女	she	her	her	hers	herself
	彼ら	they	their	them	theirs	themselves
	それ	it	its	it		itself

I visited my friend in Kyoto.
私は 私の

(私は京都にいる [私の] 友だちを訪ねました)

Pass me the salt, please. (私に塩をとってください)
私に

日本語は代名詞 (上の文で「私は」「私の」「私に」) を省いても会話文として成立します。しかし**英語では代名詞を省略しない**ことをしっかり頭に入れておきましょう。

Unit 2 代名詞に置きかえるときの注意点

代名詞への置きかえは、「私 (1人称)」または「あなた (2人称)」を含むかどうかポイントです。置きかえの法則は、1人称が1番強い、2人称がその次、3人称が最後と理解してください。

Chapter
2

私を含めば1人称、あなたを含めば2人称

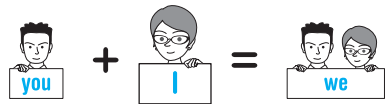
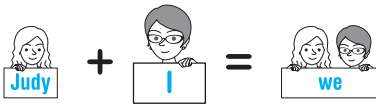
まず「私を含んでいたら必ず1人称 (複数では we 私たち)」です。例えば you and I (あなたと私 = 私たち) や Judy and I (ジュディと私 = 私たち) は代名詞で we になります。

Judy and I are good friends.

we

(ジュディと私は仲の良い友だちです)

私たちは



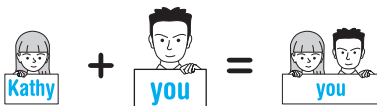
次に「(私は含まず) あなたを含んでいたら2人称 = you あなたたち」です。例えば Kathy and you (キャシーとあなた = あなたたち you), Judy, Ken and you (ジュディとケンとあなた = あなたたち) は代名詞で you になります。

Kathy and you are invited to his birthday party.

you

(キャシィとあなたは彼の誕生日パーティに招待されています)

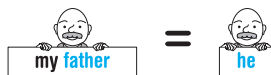
あなたたちは



「私」も「あなた」も含まないものは3人称

また「私」も「あなた」も含まないならば3人称です。「私の」「あなたの」という修飾語に惑わされないようにしましょう。

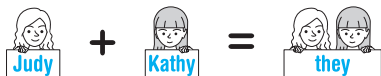
my father (私のお父さん) → **he** (彼)



your daughter (あなたの娘) → **she** (彼女)



Judy and Kathy (ジュディとキャシィ) → **they** (彼ら)



よく間違う例は **my father** を **I**, **your daughter** を **you** としてしまうことです。しかし「私のお父さん」は「私」ではなく「一人の男性 = **he**」です。同様に「あなたの娘」は「あなた」ではなく一人の女性なので **she** です。次の下線部を代名詞に変えてみましょう。

1. John and you are great athletes.

(ジョンとあなたは素晴らしい運動選手です)

2. My T-shirt is too tight. (私のTシャツは小さすぎます)

3. My son's friends love music.

(私の息子の友人たちは音楽が大好きです)

1. You (あなた) を含んでいるから 2 人称の **you** (あなたたち)
2. Tシャツは人物ではなく一つのモノだから単数の **it**
3. 主語は「私の息子の友人たち」という複数の人物 **they** (彼ら)

まとめ

- 代名詞は名詞の代わり
- 2 回目に出てきた名詞は代名詞に変える
- I-my-me-mine とセットで覚える
- 「私」と「あなた」以外は 3 人称
- 複数の人を代名詞にするときは「私」が 1 番、「あなた」が 2 番!

Chapter 2 代名詞 練習問題

次の文の下線部を代名詞に置きかえましょう。

1. John and Ken are Mike's friends. (ジョンとケンはいマイクの友だちです)
2. Judy and I are sisters. (ジュディと私は姉妹です)
3. You and Ken are kind. (あなたとケンは親切です)
4. My father is a doctor. (私の父は医師です)
5. My hometown is famous for its temples. (私の故郷は寺院で有名です)

次の文の()内を適切な形にしましょう。

6. That is (you) car. (これはあなたの車です)
7. This is (I) dictionary. (これは私の辞書です)
8. (She) mother is a teacher. (彼女のお母さんは教師です)
9. This is (we) dog. (これは私たちの犬です)
10. (It) name is Hachiko. (その名前はハチ公です)

次の文の()内から適切な語を選びましょう。

11. That is not Kathy's bag. It's (my, her, mine).
(あれはキャシーのバッグではありません。それは私のものです)
12. Is this your ticket? — No. It's (you, yours, him).
(これはあなたのチケットですか。— いいえ、それはあなたのものです)
13. That CD is hers. This one is (me, your, his).
(そのCDは彼女のです。これが彼のものです)

14. This camera is (my sister, my sisters, my sister's).

(このカメラは私の姉〔妹〕 のものです)

15. Are those your balls or their balls? —They are (your, theirs, their).

(あれらはあなたのボールですか、それとも彼らのボールですか。— それらは彼らのものです)

次の文の () 内を適切な代名詞の形にしましょう。

16. Judy sometimes plays the violin for (I).

(ジュディはときどき私のためにバイオリンを弾いてくれます)

17. This is our friend John. We like (he) very much.

(こちらは友達のジョンです。私たちは彼が大好きです)

18. All of (we) were excited to hear the news.

(私たちは皆そのニュースを聞いて興奮していました)

19. Do you play tennis with (your sister)?

(あなたのお姉さん〔妹さん〕 とテニスをしますか)

20. I found (this book) quite interesting.

(この本はとてもおもしろかったです)

解答と解説

1. **They** are Mike's friends.
▶ John and Ken は「私でもあなたでもない第三者」で複数の人物。
2. **We** are sisters. ▶ Judy and I は「私を含む」複数の人物。
3. **You** are kind. ▶ You and Ken は「あなたを含む」から「あなたたち」。
4. **He** is a doctor. ▶ My father は私でもあなたでもない「一人の男性」。
5. **It** is famous for its temples. ▶ my hometown は人物でなく「一つのモノ」。

6. That is (**your**) car. ▶ あなたの = your
7. This is (**my**) dictionary. ▶ 私の = my
8. (**Her**) mother is a teacher. ▶ 彼女の = her
9. This is (**our**) dog. ▶ 私たちの = our
10. (**Its**) name is Hachiko. ▶ その = its

11. That is not Kathy's bag. It's (**my, her, mine**).
▶ my bag = mine 私のもの
12. Is this your ticket? —No. It's (**you, yours, him**).
▶ your ticket = yours あなたのもの
13. That CD is hers. This one is (**me, your, his**). ▶ his CD = his 彼のもの
14. This camera is (**my sister, my sisters, my sister's**).
▶ my sister's = 私の姉〔妹〕のもの
15. Are those your balls or their balls?
They are (**your, theirs, their**). ▶ their balls = theirs 彼らのもの

16. Judy sometimes plays the violin for (me). ▶ for me =私のために
17. This is our friend John. We like (him) very much.
▶ like him =彼を好き
18. All of (us) were excited to hear the news. ▶ all of us =私たち皆
19. Do you play tennis with (her)? ▶ with her =彼女と一緒に
20. I found (it) quite interesting. ▶ this book = it (それを)

コラム

ペットは人 (he / she) ? それともモノ (it) ?

大好きなペットには服を着せたり「この子ったら」と人間のように接する人が多いのは洋の東西を問いません。ペットは文法的にはモノですから、代名詞では **it** です。しかし言葉は相手とのコミュニケーションのツールにすぎません。ペットが好きな人との会話では人として扱うのもよくあることだということを覚えておきましょう。

That is my daughter, Dorothy. (あの子は私の娘のドロシーよ)

Great! She is so cute! (わあ！ かわいい子ですね！)

Chapter 3

動詞と文の作り方

「要するに何を伝えたい」という結論を述べるのが動詞の役割で、文の中でもっとも大切な部分です。

英語の動詞は主語に合わせて変化します。

覚えてしまえば変化のルールは

簡単な算数のように規則的なものです。

基本的な動詞をマスターしたら、普通の文(肯定文)だけでなく、疑問文や否定文もマスターしましょう。

- Unit 1 動詞とは
- Unit 2 be 動詞と一般動詞
- Unit 3 主語と動詞の一致
- Unit 4 一般動詞：自動詞と他動詞
- Unit 5 疑問文の作り方
- Unit 6 Wh・How の疑問文
- Unit 7 疑問文への答え方
- Unit 8 否定文の作り方
- Unit 9 否定疑問文
- Unit 10 付加疑問文

Unit 1 動詞とは

動詞は状態、動作や感情を表す

動詞とは状態、動作や感情を表す言葉です。日本語の動詞には、歩く (walk), 好む (like), する (do) などがあります。これらに共通するのは語尾を伸ばすと「ウ音」になることです (歩くー [う], 好むー [う], するー [う])。

英語では動詞を2種類に分けます。動作や感情を表す動詞を「一般動詞」と呼び、「～です」という意味を持つ動詞を「be 動詞」と言います。一般動詞と be 動詞の簡単な見分け方を覚えておきましょう。

一般動詞は「～ます」で終わる

歩く (walk), 好む (like), する (do) は、それぞれ「歩きます」、「好みます」、「します」というように「～ます」という語尾にすることができます。迷いやすい例をあげると、want という単語は「欲しい」と訳すことができます。しかし「欲しい」→「欲します」と変化させることができます。やはり「～ます」という原則が使えます。

be 動詞は「～です」「～にいます、あります」

I am John. (私はジョンです), His name is Mike. (彼の名前はマイクです), We are brothers. (私たちは兄弟です) のような表現は馴染み深いですね。このように「～です」で終わる言葉を be 動詞と呼びます。また「～にいます、あります」という使い方もあります。例えば Meg is at home. (メグは家にいます) や The documents are on the desk. (書類は机の上にあります) のように使います。

be 動詞は A と B をイコールで結ぶ

be 動詞は「A = B」という文の「=」にあたる部分です。意味付けをする動詞というよりも A と B を結ぶ補助的な感覚であると考えてもよいでしょう。

I **am** John. (私はジョンです)

My daughter **is** a nurse. (私の娘は看護師です)

Meg **is** at home. (メグは家にいます)

A = B 以外の動作・感情は一般動詞

「A = B」という状態以外の動作・感情はすべて一般動詞で表現されます。

Meg **writes** a letter. (メグは手紙を書きます)

↳ write : 「書く」という動作を表現

My sister **loves** shopping. (私の姉〔妹〕は買い物が好きです)

↳ love : 「大好き」という感情を表現

be 動詞の am は主語 I だけに使う

be 動詞は主語によって変化します。一番わかりやすい覚え方は「am は I だけに使い、後は規則的」と考えることです。

1 人称

I — am — a scientist . (私は科学者です)

We — are — busy . (私たちは忙しいです)

2 人称

You — are — a good friend . (あなたは良い友達です)

You — are — good friends . (あなたたちは良い友達です)

3 人称

He/She — is — a college student . (彼 [彼女] は大学生です)

It

This — is — a good idea . (それ [これ/あれ] は良い考えです)

That

They — are — kind . (彼らは親切です)

こうして比較すると、**are は複数と you (=あなた)** という規則が見えてきます。これさえつかめば、あとは過去形は「am/is → was」「are

→ were」に変化させる単純作業です。

原型の **be** は助動詞が伴った文と命令文のときだけに使います。

命令文 **Be quiet!** (静かにしなさい)

助動詞つき **He must be hungry.** (彼はお腹が減っているにちがいない)

一般動詞の3人称・単数・現在のときはsをつける

一般動詞（動作・感情を表す言葉）は3人称・単数・現在のときは**s**をつけます。頭文字をとって「3単現」とも呼ぶ英語独特のルールです。代名詞で **it** (一つのモノ) **he** / **she** (一人の人物), つまり一つのモノと一人の人物は**3人称単数**です (Mike = he, a desk = it など)。これらの言葉が主語になった場合には「**3単現のs**」を忘れないようにしましょう。

3人称・単数

人

He (彼), **She** (彼女)

Mike (人の名前)

A student, The student (学生) など

モノ・国の名前

It (それ), **This** (これ),

That (あれ)

A desk (机)

Japan (日本)

I like music. (私は音楽が好きです)

↓ ↓

He likes music. (彼は音楽が好きです)

3単現の **s** (like → likes) は、単純に **s** をつける以外の変化もあります。以下の2つのルールを覚えておくと便利です。

ルール 1. 語尾が -s, -x, -z, -ch, -sh のとき → -es をつける

ルール 2. 語尾が子音字 + y のとき → y を i にかえて -es をつける

ルール 1. 語尾が -s, -x, -z, -ch, -sh のとき → -es をつける

press	match	wash
↓	↓	↓
presses	matches	washes
(~を押す)	(~と調和する)	(~を洗う)

ルール 2. 語尾が子音字 + y のとき → y を i にかえて -es をつける

子音字とは母音字 (a, e, i, o, u) 以外 (b / c / d / f / g / h / j / k / l / m / n / p / q / r / s / t / v / w / x / y / z) を指します。

stud <u>y</u>	fl <u>y</u>	cr <u>y</u>	
↓	↓	↓	y を i にかえる
stud <u>i</u>	fl <u>i</u>	cr <u>i</u>	
↓	↓	↓	-es を足す
stud <u>ies</u>	fl <u>ies</u>	cr <u>ies</u>	
(勉強する)	(飛ぶ)	(泣く)	

語尾が y であっても「母音字 + y ならばそのまま s をつける」ので注意をしましょう (play → plays, enjoy → enjoys)。

自動詞は「自ら」行い、他動詞は「他の人やモノに」働きかける行為

自動詞は「自ら」行い、他動詞は「他の人やモノに」働きかける行為です。例えば「散歩する」というのは自らの行為で「～をチェックする」は明らかに何か自分以外の他のものに働きかける行為ですね。

I **walk** every morning. (私は毎朝散歩します)
散歩する

I **check** e-mail every morning. (私は毎朝メールをチェックします)
チェックする

注意が必要なのは他動詞です。「チェックする」というからには「～を」という表現がないと意味が成り立ちません。「～を、～に」という対象を目的語と言います。他動詞には必ず目的語が必要だということを覚えておきましょう。



I **walk**.
(私は散歩します)

I **deliver** a pizza.
(私はピザを配達します)



自動詞が「～に、～を」という意味を伴う場合には前置詞が必要

自動詞が「～に、～を」という意味を伴う場合には to や in のような前置詞を必要とします。

I **live** **in** this house. (私はこの家 **に** 住んでいます)
住む

動詞 live（住む）は他のモノに働きかけない自動詞です。このような場合は前置詞をつけます。

自動詞か他動詞かは動詞の性質で決まる

自動詞か他動詞かはその動詞の持つ意味合いを考えて判断します。例えば、日本語の「話す」にあたる英語には tell, talk, speak などがありますが、それぞれ「～に語りかける」、「話す」、「～を話す、話しかける」という意味合いがあります。つまり、tell は「～に語りかける」という他の人に働きかける動作、talk は「話す」という自らの行為なので自動詞です。speak は他動詞（～を話す）と自動詞（話しかける）両方の使い方があります。

Please **tell me** the truth. （本当のことを私に話してください）

We **talked** about business. （私たちはビジネスについて話しました）

Hello, may I **speak** to Judy? （もしもし、ジュディをお願いします）

自動詞と間違えて前置詞をつけやすい動詞

Please **contact** the reception. （受付に連絡してください）

contact は「～に連絡する」つまり「ほかの人やモノに働きかける行為 = 他動詞」です。従って必ず「～に」という働きかける対象（目的語）を伴う性質を持っています。私たちは「～に」という言葉があると、つい「てにをは」にあたる前置詞を入れようと発想しがちですが、contact with the reception は間違いです。

もう一つ「結婚してくれませんか」を英語にしてみます。

Will you **marry me**? (私と結婚してくれませんか)

結婚は一人ではできない行為ですので、「～と結婚する」という対象が必要です。このように **contact** や **marry** のように**自分だけでは完結できず「働きかける対象」を伴うのが他動詞の特徴**です。

まとめ

be 動詞

- be 動詞は「A = B」のイコール（つなぎの役割）
- be 動詞の am は I にだけ使う

一般動詞

- 一般動詞は動作や感情を表す
- 一般動詞の 3 人称には -s をつける
- 自動詞はそれだけで完結，他動詞は働きかける人やモノが必要

Unit 5 疑問文の作り方

be 動詞の疑問文は be 動詞を先頭に

be 動詞の疑問文は be 動詞を先頭に持ってくるだけです。後で学ぶ進行形・受動態などの複雑な文でも同じルールです。まず簡単な例文を見てみましょう。

He **is** from New York. (彼はニューヨーク出身です)

Is he from New York? (彼はニューヨーク出身ですか)

「be 動詞を先頭に持ってくるだけ」というルールは現在進行形でも同じです。

Ken **is** reading a book in his room.
(ケン は 部屋で本を読んでいます)

Is Ken reading a book in his room?
(ケン は 部屋で本を読んでいますか)

このように文の形が変わっても **be 動詞がある限りは「be 動詞を先頭に持ってくるだけ」**で疑問文ができます。

一般動詞の疑問文は助動詞 do を先頭に加える

一般動詞の疑問文は助動詞 **do** を先頭に加えます。基本はこの法則ですから、疑問文を作るのは難しくありません。例文を見てみましょう。

Many foreigners visit Kyoto. (多くの外国人が京都を訪れます)

Do many foreigners visit Kyoto ?

(多くの外国人が京都を訪れますか)

主語が3人称単数の場合は does と動詞の原形を使う

気をつけるのは主語が3人称単数 (he / she / it など) の時です。主語が3人称単数の場合は **does** を使います。そして、**does** を使うときは動詞を原形 (s なし) にします。英語の文は助動詞 (この場合は **does**) が含まれていると動詞の原形を使うというルールがあるからです。

Chapter
3

動詞と文の作り方

Judy **wants** to be an astronaut.

(ジューディは宇宙飛行士になりたいです)

Does Judy **want** to be an astronaut ?

(ジューディは宇宙飛行士になりたいですか)

Wh・How の直後を疑問形にする

who (誰が), what (何を), where (どこで), when (いつ), why (なぜ), how (どうやって) を尋ねる疑問文を Wh・How 疑問文と言います。これらの疑問詞の後ろに疑問形をもってきます。

メグはどうしていますか (How, Meg, doing, is)

疑問詞

疑問文

How + **is** Meg doing?

彼らはどこの出身ですか (Where, they, do, come from)

疑問詞

疑問文

Where + **do** they come from?

動作や状態の当事者 (主語) を尋ねる時は動詞に s をつける

「だれが」「なにが」「どれが」など主語を尋ねる場合は do や does を使いません。そのかわり 3 人称単数の s をつけます。

だれがあの家に住んでいますか (Who, in the house, lives)

疑問詞

動詞に s つきの疑問文

Who + **lives** in the house?

Wh・How は他の単語と結んで使われる

What time（何時）や Which bus（どのバス）のように他の単語と結んで使われることがあります。

What time is it now?（今何時ですか）

この場合、time を別の場所に持っていったらおかしいのは感覚的にもわかりますね。

Which train do you take?（どの電車に乗りますか）

尋ねているのは、どれ（which）ではなく、どの電車（which train）です。

Yes/No と代名詞+助動詞で答える

普通の疑問文には Yes または No を最初に答えます。日本語はあいまいな受け答えも美德とされますが、英語では話し手の意思をはっきり伝えることが大切です。また英語は繰り返しの表現を嫌いますので、代名詞や助動詞 (do, does, did, can など) を使います。

Do you often go shopping? (よく買い物に行きますか)

— Yes, I do. (はい、行きます)

— No, I don't. (いいえ、行きません)

答え方のポイント

ステップ 1. 疑問文の do や does をそのまま繰り返す

ステップ 2. 主語を代名詞に置きかえる

Does Judy go to work?

(ジュディは仕事に行きますか)

— Yes, she **does**.

— No, she **doesn't**.

Can Judy go to work?

(ジュディは仕事に行けますか)

— Yes, she **can**.

— No, she **can't**.

be 動詞を使った疑問文も同じように be 動詞をそのまま返し、主語はやはり代名詞に置きかえます。

Are these books yours? Yes, **they are**. (はい、そうです)
(これらの本はあなたのものですか) No, **they aren't**. (いいえ、違います)

Wh・How には尋ねられた内容を答える

Wh・How には Yes, No ではなく、尋ねられたことに対して具体的に答えます。「いつ」、「どこで」、「誰が」、という質問には「はい／いいえ」で答えることはできません(例えば「どこに住んでいるか」という質問に対して「はい／いいえ」で答えるのは日本語でもおかしいですね)。

Where does Ken live? (ケンはどこに住んでいますか)

He lives in **Hokkaido**. (彼は北海道に住んでいます)

Do you mind ...? に注意

mind を使った疑問文はよく間違えるので注意が必要です。

Do you mind if I smoke?

(タバコを吸ったら気にしますか = 吸ってもいいですか)

私たちは「はい、どうぞ」の意味で Yes と答えたくくなります。しかし、正しい答え方はこうなります。

No, I don't. (いいえ、気にしません=吸ってもいいですよ)

Do you mind (あなたは気にしますか) という質問なので、気にしないのであれば **No** (いいえ、気にしません) つまり **No, I don't mind.** (いいえ、私は気にしません) という答え方が適切です。

さらに、**go ahead** (どうぞ) などを加えると丁寧です。反対に「気にする=してほしくない」の場合は、**I'm afraid I do.** のようにやんわりと断るのが礼儀正しい返答です。決まり文句なので覚えてしまいましょう。

Do you mind if I smoke? (タバコを吸ってもいいですか)

—**No, I don't. Go ahead.** (はい、どうぞ)

—**I'm afraid I do.**

—**I'd rather you didn't.** (吸わないでいただけるとありがたいです)

be 動詞の後ろに not を入れる

be 動詞の否定文は be 動詞の後ろに not を入れるだけです。単純作業なので be 動詞の否定文は疑問文よりも簡単です。

She **is** ready for the trip. (彼女は旅行の準備ができています)

She **is not** ready for the trip. (彼女は旅行の準備ができていません)

is や are に n't をつけると not が短縮できる

会話では短縮形がよく使われます。前にある単語 (is や are) に n't をつけると短縮形ができるという法則です。not を含む短縮形のルールはさまざまなケースで応用がききますのでぜひ身につけてください。

現在形 is not → **isn't**

are not → **aren't**

過去形 was not → **wasn't**

were not → **weren't**

さきほどの例文ではこうなります。

She **isn't** ready for the trip.

一般動詞は do not または does not

一般動詞の否定文は do not または does not を動詞の前に入れます。be 動詞よりも少しややこしいかもしれませんが、算数のような単純な

ルールと気楽に考えてください。

We **need** to help each other.

(私たちは互いに助けあう必要があります)

We **do not need** to help each other.

Ken's father **works** for a bank in Chicago.

(ケンのお父さんはシカゴの銀行に勤めています)

Ken's father **does not work** for a bank in Chicago.

最初の文は動詞 (need) の前に do not を入れただけなので、わかりやすいと思います。下の文は主語 (Ken's father) が3人称単数 (代名詞にすれば he) なので、do not ではなく does not を入れます。疑問文と同様に **does** という助動詞があるので動詞は原形になります。works が否定文では work に変わっています。

be 動詞と同様に会話では短縮形がよく使われます。

do not → **don't**

does not → **doesn't**

やはり not を含む短縮形のルールに従い、do または does に n't をくっつけば短縮形の完成です。念のために短縮形での文を見ておきましょう。

We **don't** need to help each other.

Ken's father **doesn't** work for a bank in Chicago.

日常的な会話では、たいてい短縮形が使われると考えてよいでしょう。

しかし話すときの発音やアクセントに自信がない場合には、短縮形を使わないことをおすすめします。

答える内容が肯定であれば Yes, 否定であれば No を使う

否定を含んだ疑問文（～でないですか）への Yes, No は内容が肯定か否定かによって決まります。これは日本人がもっとも苦手とする分野なので、じっくりと見ていきましょう。まず普通の疑問文です。

Does John come to the party? (ジョンはパーティに来ますか)

— Yes, he does. (はい、来ます)

普通の会話ですから何の違和感ありませんね。しかしこれを否定を含む表現（～でないですか）にすると、日本語ではこうなります。

ジョンはパーティに来ないのですか。

— いいえ、来ます。

— はい、来ません。

これを英語で表現すると、このようになります。

Doesn't John come to the party?

(ジョンはパーティに来ないのですか)

— Yes, he does. (いいえ、来ます)

= Yes, he comes to the party.

— No, he doesn't. (はい、来ません)

= No, he doesn't come to the party.

このように Yes , No は日本語の「はい」, 「いいえ」とは異なります。ポイントは答える内容が肯定であれば Yes, 否定であれば No を使うことです。ジョンがパーティに来る (he does = he comes to the party) のであれば, 質問が「来ますか」でも「来ませんか」でも答えは Yes なのです。

文末に「だよね」が付加疑問文

文末に「だよね」を加えて同意や確認を求めるのが付加疑問文です。日本語であれば「今日はいい天気ですよね」、「音楽は好きですよね」のように語尾を変化させて成り立つ文です。英語の肯定文では *isn't it?* や *doesn't it?* のような否定の疑問形を加えます。返事の仕方は疑問文と同じです。

肯定文 It is a nice day. (今日はいい天気です)

付加疑問文 It is a nice day, **isn't it?** (今日はいい天気ですよね)

—Yes, it is. (そうですね)

—No, it isn't. (そうでもありません)

付加疑問文の作りかた

ルール 1. 付加した部分には代名詞を使う

ルール 2. 主語と動詞に応じた否定疑問形を文末につける

ルール 3. 元が否定文であれば、付加部分は **not** のない疑問形になる

ルール 1. 付加した部分には代名詞を使う

英語は2番目に出てきた具体的な名詞は代名詞に置きかえる習慣があります。

Meg is an actress, isn't **she**? (メグは女優ですよ)

Those **books** are yours, aren't **they**?
(あれらの本はあなたのですよ)

ルール 2. 否定疑問形を文末につける

文型に応じた疑問文を考え、それに **not** を付け加えます (否定の疑問形)。

be 動詞

be 動詞の文は be 動詞に **not** を加えるだけです。

You are hungry, **aren't you**? (あなたはお腹が減っていますよね)

↳ 疑問形の **are you** を否定の疑問形に

そのほかの例

He is ..., isn't he?

She was ..., wasn't she?

You are ..., aren't you?

Students were ..., weren't they?

We were ..., weren't we?

例外! 主語が I の場合, am not の短縮形はないので, aren't I を使います。

I'm right, aren't I? (私は正しいですよ)

注意! Someone や somebody のような人を表す代名詞には普通 is を使いますが, 付加部分では複数形の aren't にします。

Everyone is surprised, aren't they? (みんな驚いていますよね)

一般動詞

一般動詞の文も文型に応じた疑問文を考え, それに not を付け加えます (否定の疑問形)。

Your father likes music, doesn't he?

(あなたのお父さんは音楽が好きですよ) ↳ 疑問形の does he を否定の疑問形に

そのほかの例

You want ..., don't you?

I sent ..., didn't I?

Japanese prefer ..., don't they?

It says ..., doesn't it?

助動詞

They can come, can't they? (彼らは来られますよね)

↳ 疑問形の can they を否定の疑問形に

They will come here tomorrow, won't they?

(彼らは明日ここに来ますよね)

ルール 3. 否定文の場合、付加部分は疑問形

元が否定文であれば、付加部分は not のない疑問形になります。ルールそのものは難しくありません。ただし訳し方に気をつけましょう。「～ではない」ことに同意を求めていますから「～ではないですよね」というのが適切な訳になります。

Meg **isn't** an actress, **is she**? (メグは女優ではないですよね)

—Yes, she is. (いいえ、彼女は女優です)

—No, she isn't. (ええ、そうです=女優ではありません)

まとめ

疑問文

- be 動詞の疑問文は be 動詞を先頭に
- 一般動詞は先頭に do か does を入れて動詞を原形に
- Wh・How の疑問文は Wh・How の直後に普通の疑問文を入れる

否定文

- be 動詞：be 動詞 + not (is not / are not / am not)
- 一般動詞：do not [does not] + 動詞の原形

否定疑問文

- 疑問文の最初を否定形にする (don't / doesn't / isn't / aren't など)
- 答える内容が肯定 (～です) であれば Yes, 否定 (～ではありません) であれば No

付加疑問文

- 付加疑問文は「だよね」の意味
- 普通の文 + 否定の疑問詞 (... , isn't it? / ... , don't you? など)

次の()に am, are, is のうち適切な語を入れましょう。

1. My brother () a dentist. (私の兄〔弟〕は歯科医です)
2. I () from New York. (私はニューヨーク出身です)
3. Ken and you () good friends. (ケンとあなたは良い友だちです)
4. Our school () on the hill. (私たちの学校は丘の上にあります)
5. Who () that boy? (あの少年はだれですか)

次の文の()内から適切な語を選びましょう。

6. My brothers (study, studies) English very hard.
(私の兄弟は一生懸命英語を勉強します)
7. Their aunt (live, lives) in Kyoto.
(彼らの叔母は京都に住んでいます)
8. That store (sell, sells) books and CDs.
(あの店は本とCDを売っています)
9. John and Mike (play, plays) soccer every Sunday.
(ジョンとマイクは毎週日曜日にサッカーをします)
10. A lot of Australians (like, likes) Japanese food.
(オーストラリア人の多くが日本食を好みます)

次の文の下線部が正しければ○, 誤っていれば×を()に入れましょう。

11. Please contact with me when you get home. ()
12. The train arrived the station on schedule. ()
13. Can I speak Mr.Graham? ()
14. We grow up vegetables and fruits. ()
15. Will you show to me your driver's license? ()

次の文の()に am, is, are, do, does のうち適切な語を入れましょう。

16. () John drink beer every evening?
(ジョンはビールを毎晩飲みますか)
17. () you from Osaka? —Yes, I ().
(あなたは大阪出身ですか。—はい, そうです)
18. () Mike's brothers play golf well?
(マイクの兄弟はゴルフが上手ですか)
19. () their school near your home?
(彼らの学校はあなたの家から近いですか)
20. () Judy and Meg go shopping this afternoon?
(ジュディとメグは今日の午後に買い物に行きますか)

次の例にならって下線部を尋ねる疑問文を作りましょう。

(例) I play baseball in the park. → Where do you play baseball?

21. His sister leaves for school at 7:30.
(彼の姉〔妹〕は7時30分に学校に行きます)

22. Tom and Paul play tennis after school.

(トムとポールは放課後にテニスをします)

23. I want to buy a new car.

(新しい車を買いたいです)

24. Nancy is in the hospital.

(ナンシィは入院しています)

25. They go to work by car.

(彼らは車で通勤しています)

次の文の () に isn't, aren't, don't, doesn't のうち適切な語を入れましょう。

26. My father () have a driver's license.

(私の父は運転免許証を持っていません)

27. Mr. and Mrs. Johnson () at home now.

(ジョンソン夫妻は今家にいません)

28. His sisters () drink tea.

(彼の姉妹は紅茶を飲みません)

29. Ken () good at basketball.

(ケンは一バスケットボールが苦手です)

30. This pen () write well.

(このペンは上手く書けません)

例にならって次の文を付加疑問文にしましょう。

(例) He is very tall.

→ He is very tall, isn't he?

31. This is a nice view.

(これはいい景色です)

32. Your sisters like learning the piano.

(あなたの姉妹はピアノを習うのが好きです)

33. Meg usually wears glasses.

(メグは普段メガネをかけています)

34. You will come to the party.

(あなたはパーティに来ます)

解答と解説

1. My brother (**is**) a dentist. ▶ my brother は代名詞で he に相当。
2. I (**am**) from New York. ▶ I に対する be 動詞は am。
3. Ken and you (**are**) good friends.
▶ Ken and you は代名詞で you あなたたち。
4. Our school (**is**) on the hill.
▶ our school は一つのモノなので代名詞で it に相当。
5. Who (**is**) that boy? ▶ that boy は代名詞で he に相当。
6. My brothers (**study, studies**) English very hard.
▶ my brothers = 私の兄弟たちは they に相当。
7. Their aunt (**live, lives**) in Kyoto. ▶ their aunt (彼らの叔母) は she に相当。
8. That store (**sell, sells**) books and CDs. ▶ that store = あの店は it に相当。
9. John and Mike (**play, plays**) soccer every Sunday.
▶ John and Mike は they に相当。
10. A lot of Australians (**like, likes**) Japanese food.
▶ a lot of Australians (たくさんのオーストラリア人) は they に相当。
11. (×) Please contact me when you get home.
(お帰りになりましたら私にご連絡ください)
▶ contact (～に連絡する) は他動詞のため、前置詞は不要。

12. (×) The train arrived at the station on schedule.

(その電車は予定通りに駅に到着しました)

▶ arrive (～に着く) は自動詞のため、前置詞が必要。

13. (×) Can I speak to Mr. Graham?

(グラハムさんはいらっしゃいますでしょうか)

▶ speak は人に話しかける場合は自動詞のため、前置詞が必要。

14. (×) We grow vegetables and fruits.

(私たちは野菜と果物を栽培しています)

▶ 「育てる・栽培する」という意味の grow は他動詞のため、前置詞は不要。

15. (×) Will you show me your driver's license?

(運転免許証を見せてもらえますか)

▶ show (～に見せる) は他動詞のため、前置詞は不要。

16. (Does) John drink beer every evening?

▶ John は he に相当し drink (飲む) は一般動詞。

17. (Are) you from Osaka? Yes, I (am).

▶ 「～出身です」は《be 動詞 + from》で表す。

18. (Do) Mike's brothers play golf well?

▶ Mike's brothers は複数の人物で they に相当。

19. (Is) their school near your home?

▶ their school は一つのモノで it に相当。

20. (Do) Judy and Meg go shopping this afternoon?
▶ 主語は「Judy and Meg」の2名なので代名詞で they に相当。
21. What time does his sister leave for school?
▶ 時間は What time で尋ねる。
22. When do Tom and Paul play tennis? ▶ 時は When で尋ねる。
23. What do you want to buy? ▶ 何は What で尋ねる。
24. Who is in the hospital? ▶ 誰は Who で尋ねる。
25. How do they go to work? ▶ 手段は How で尋ねる。
26. My father (doesn't) have a driver's license.
▶ my father (私の父) は一人の男性で he に相当し、3人称単数。
27. Mr. and Mrs. Johnson (aren't) at home now.
▶ Mr. and Mrs. Johnson (ジョンソン夫妻) は複数の人物で they に相当。
28. His sisters (don't) drink tea.
▶ his sisters (彼の姉妹たち) は they に相当。
29. Ken (isn't) good at basketball.
▶ Ken は一人の男性で he に相当。
30. This pen (doesn't) write well.
▶ this pen (このペン) は一つのモノで it に相当。
31. This is a nice view, isn't it?
▶ this は代名詞で it。

32. Your sisters like learning the piano, don't they?

▶ your sisters は代名詞で they。

33. Meg usually wears glasses, doesn't she?

▶ Meg は 3 人称単数なので does を使う。

34. You will come to the party, won't you?

▶ 付加疑問文で will not は必ず短縮形の won't を使う。

コラム

動詞の語感をつかみ意味を推測する

英語には数多くの動詞がありますが、日常会話では **have**, **get**, **make** が本来の動詞の代用としてよく使われます。

I **had** (= ate) lunch at noon. (正午に昼食を食べました)

Did you **get** (= understand) it? (わかりましたか)

この3つの動詞には非常に幅広い意味がありますが、すべて暗記することは不可能です。その代わりに **have**, **get**, **make** の基本的語感を覚えましょう。

have = 所有する → **have lunch** (昼食を所有する=食べる)

get = 手に入れる → **get it** (それを手に入れる=理解する)

make = 作る → **make a noise** (音を作る=音を立てる)

これらはほんの一例ですが、究極的には英語力=語彙力です。そして単語の意味を暗記するのではなく**単語の語感を理解して解釈すること**が英語力向上の一つのカギです。

大森 善郎 (おおもり・よしろう) (旧姓：瀬川)

早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。(株) ワイズアカデミー代表取締役。

学習塾ワイズアカデミー、鹿島学園高等学校(通信制)成田キャンパス、大人の初級英語教室を運営。

インターネットラジオの初級英語講座、読者 2000 名を超える大人気のブログでの連載など英語初心者を対象とした指導はカリスマの異名をとる。著書に『よっちゃんのやさしい英語レッスン』(ピープレス出版)がある。

ニューヨーク、ロンドンなどの海外駐在経験と 10 年以上のアメリカ企業での勤務、IT 分野での通訳として世界中を飛び回った幅広い経験から「生きた英語」と文化の違いの橋渡し役としての実力は高い定評がある。



(株) ワイズアカデミー

〒 286-0035 千葉県成田市団護台 2-1-5

ホームページ : <http://www.cai-narita.com/> 電話 : 0476-24-7641

メール : info@cai-narita.com ブログ : <http://ameblo.jp/cai-narita/>

© Yoshio Omori, 2011, Printed in Japan

基本マスター BASIC 英文法

2011 年 8 月 15 日 初版第 1 刷発行

著者 大森 善郎
制作 ツディブックス株式会社
発行者 田中 稔
発行所 株式会社 語研
〒 101-0064
東京都千代田区神田猿楽町 2-7-17
電話 03-3291-3986
ファクス 03-3291-6749
振替口座 00140-9-66728
組版 ツディブックス株式会社
印刷・製本 シナノ書籍印刷株式会社

ISBN978-4-87615-241-4 C0082

書名 キホンマスター ベーシックエイブンボウ

著者 オオモリ ヨシロウ

著者および発行者の許可なく転載・複製することを禁じます。

定価はカバーに表示してあります。
乱丁本、落丁本はお取り替えいたします。

株式会社 語研 GOKEN

語研ホームページ <http://www.goken-net.co.jp/>

本書の感想は
スマホから ↓

